

## 関西大学独逸文学会記録（2021年1月～12月）、関西大学独逸文学会2020年度会計報告

その他のタイトル	Protokoll der Gesellschaft für Germanistik der Kansai Universität (Januar bis Dezember 2021), Finanzbericht 2020
雑誌名	独逸文學
巻	66
ページ	137-139
発行年	2022-03-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00026766">http://hdl.handle.net/10112/00026766</a>

# 関西大学独逸文学会記録

(2021年1月～12月)

2021年3月20日、「独逸文学」65を発行した。

2021年度総会および第113回研究発表会

日時：2021年11月20日（土）13時00分～17時30分

場所：関西大学（千里山）第1学舎5号館E502教室

○研究発表会

## 【シンポジウム1】

ドイツにおける移民を対象とする教育政策—移民の社会への統合とその課題

司会：高橋秀彰（本学教授）

(1) 吉満たか子（広島大学外国語教育研究センター）

コロナ禍におけるドイツの移民・難民のための統合コース

(2) 小西優貴（本学大学院外国語教育学研究科博士後期課程在学）

ドイツの小学校国語教育における移民背景を持つ児童生徒の出自言語：教科書の内容を中心に

(3) 高橋秀彰（本学教授）

ドイツの移民の多言語学習—出自言語とアイデンティティ

## 【シンポジウム2】

コーパスを用いたドイツ語史研究—ゲーテにおける mögen の用法を中心に

司会：工藤康弘（本学教授）

(1) 柴亜矢子（四天王寺大学非常勤講師）

ゲーテコーパス、および mögen に関するゲーテ時代の文法家の記述について

- (2) 河野瞳グレン（関西大学文学部ドイツ学専修3年次在学）  
現代ドイツ語における mögen の用法および目的文について
- (3) 松本大希（関西大学文学部ドイツ学専修4年次在学）  
ゲーテにおける mögen と möchte について—『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』を中心に
- (4) 原あゆな（関西大学文学部ドイツ学専修3年次在学）  
ゲーテにおける目的文について

○総会

- 1) 編集報告
- 2) 会計報告
- 3) 会長選出

工藤康弘教授が会長に選出された。

# 関西大学独逸文学会 2020 年度会計報告

(2020 年 4 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	3,073,850	『独逸文学』64号印刷費	132,000
		振り込み手数料	440
		64号 郵送料	18,056
学会費	196,500	通信費	2,772
会 員		文具	110
(専任教員4、一般会員32、大学院生1)		振込用紙印字代	203
		アルバイト代	74,000
預金利息	15		
		計	227,581
		次年度繰越金*	3,042,784
合計	3,270,365	合計	3,270,365

(単位：円)

\*内 訳

りそな銀行	1,756,022
郵便局	1,201,397
現金	85,365
合計残高	3,042,784